

シロチドリ (チドリ目チドリ科)

Charadrius alexandrinus

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR) (繁殖)

準絶滅危惧 (NT) (越冬)

環境省：絶滅危惧 II 類 (VU)

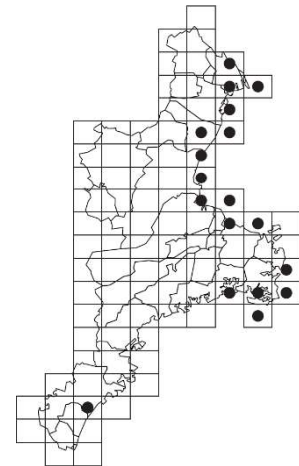
選定理由： かつては三重県下の砂浜海岸，海寄りの造成地等人口の裸地で普通に繁殖していたが，近年繁殖個体が減り，かつ成功例は多くない．繁殖地点は 10 以下であろうと考えられる．

種の概要： 全長 17.5 cm. 周年，砂浜海岸，干潟で普通に見られる小型のチドリ．首の黒い輪は胸で途切れている点でコチドリなどと区別できる．冬には大きな群になることがある．繁殖は主に内湾に面した砂浜海岸の砂地，草のまばらに生えた場所，あるいは海に近い埋め立て地などの人工的な裸地であり，地面を少しくぼませ，貝殻などを少し敷いて卵を産み，抱卵する．卵は保護色であり，巣は極めて見つけにくい．海岸でも草深い場所，松林内に巣を作らない．抱卵中に巣に近寄ると歩いて逃げる．人が巣の近くに長く留まると抱卵を放棄する．また，生まれたヒナはすぐに巣を離れ，親について餌を取る．約 3 週間で飛べるようになる．



撮影：三重県

分布： 広く温帯で繁殖し，北方で繁殖するものは南で越冬する．日本各地の海辺で繁殖し，越冬する．1995 年 11 月に熊本で標識された個体が，1996 年 7 月の繁殖期に四日市吉崎海岸で回収捕獲されているので，繁殖後には南で越冬する渡りをしていると考えられる．三重県の海岸での繁殖個体は減少していると考えられる．なお，地図に示されているのは個体が記録された生息地点であり，繁殖の確認された地点ではない．



現況・減少理由： かつては津市などの自然砂浜海岸で繁殖していた．1990 年代後半には 20 羽前後のヒナが津市の海岸で確認されている．しかし，近年は数羽程度に減少している．また，埋め立て地など人工的な裸地で集団で繁殖する場合もあったが，近年は埋め立て地そのものがなくなっている．さらに，海辺のレジャーが盛んになり，繁殖する自然の砂浜海岸に人が多く立ち入るようになり，繁殖環境が悪化した．海岸護岸の改修などで砂浜海岸が縮小した場合もある．カラス類など捕食者が増えたことも減少の要因であろうと推定される．その他にも繁殖を阻害する要因であろうと考えられる．繁殖数の回復の兆候は見られない．繁殖個体の高齢化が進んでいる可能性もある．

保護対策： 繁殖期には繁殖地である砂浜海岸での人の活動を制限する．砂浜海岸をこれ以上減らさない．砂浜海岸に松，草花などを栽植しない．

特記事項： 県鳥
三重県指定希少野生動植物種 (平成 30 年追加)